

## 金融・保険市場におけるトピックス

### 【イギリス・市場動向】

#### ○テレマティクス保険が自動車事故による死傷者数の減少に貢献

リスク・データ解析等を手がけるレクシスネクシス・リスクソリューションズは、イギリスの交通事故データの分析に基づき、テレマティクス保険の普及が自動車事故による死傷者数の減少につながっているとの見解を示した。概要は以下のとおりである。

- イギリス保険ブローカー協会（BIBA）によると、テレマティクス保険の契約数は、2011年から2017年にかけて約10倍に増えており、特に若年ドライバーはテレマティクス保険への加入に積極的である。保険会社によるテレマティクス装置等の提供コストは、2013年比で約半分になっており、消費者の8割が同保険を肯定的にとらえている。
- 一方、2011年から2017年にかけて、自動車事故による全年齢層の死傷者数は、ほぼ同時期に車両台数が10%、運転免許保有者数が7%増加したにもかかわらず、16%減少した。テレマティクス保険の普及拡大が、自動車事故による死傷者数の減少に対して一定の効果を発揮していると考えられる。

同社はまた、若年ドライバーの事故状況の深刻度を示す以下のデータを挙げたうえで、若年層へのテレマティクス保険の普及の効果・重要性を説明している。

- 17歳から24歳のドライバーは全体の7%に過ぎないが、自動車事故による死傷者数の20%を占めている。
- 自動車事故による保険金請求全体の25%が、18歳から25歳のドライバーによるものである。
- 18歳から20歳のドライバーの事故1件あたりの保険金請求額は平均4,625ポンド（約65万円）であり、これは51歳から70歳のドライバーの2倍である。  
（レクシスネクシス・リスクソリューションズ プレスリリース 2018.11.14 ほか）

### 【ドイツ・規制動向】

#### ○ドイツ保険協会がIFRSの「のれん」取扱基準に懸念を表明

2018年12月、ドイツ保険協会（GDV）が、国際会計基準審議会（IASB）が策定している国際的な財務報告基準である、国際会計基準（IFRS）<sup>（注1）</sup>における「のれん」<sup>（注2）</sup>の定期償却の導入を求めるプレスリリースを発出した。

現行のIFRSは、のれんの定期償却を認めておらず、IFRS採用企業は減損テスト<sup>（注3）</sup>を最低年1回行い、条件を満たした場合にのみ減損処理を行うことになっている。

GDVによると、のれんは全世界で7兆ドルに及んでおり、ドイツ株価指数主要30銘柄の平均で純資産の44.8%を占めている。GDVは、景気サイクルが下降傾向になった

場合にのれんの評価調整（減損）が集中することで、企業の業績・資本市場にさらに悪影響が及ぶ、プロシクリカリティ（景気循環増幅効果）に警鐘を鳴らしており、IASBもののれんの定期償却の導入を検討している。

（注1）EUの上場企業には、2005年よりIFRSの採用が義務付けられている。

（注2）M&Aにおいて買収する企業が買収先企業の純資産を超えて支払った部分で、将来の経済的便益（ブランド力や顧客情報等による将来的な収益力）等を示す資産である。

（注3）資産（のれん）がバランスシートに計上されているだけの価値があるかを客観的に評価するものである。

（GDVプレスリリース 2018.12.10 ほか）

## 【米国・市場動向】

### ○森林火災による保険損害額が2年連続で100億ドルを超える見込み

2018年11月にカリフォルニア州北部で発生したキャンプ火災は、約15万エーカーを焼失し、州史上最大の被害を出した2017年10月のタブス火災の約5,600戸を大きく上回る約1万8,800戸の建物を破壊した。同じく2018年11月に同州南部で発生したウールジー火災は、約9万7,000エーカーを焼失し、約1,600戸を破壊した。

リスクモデリング会社であるAIR WorldwideとRMSはそれぞれ、自社モデルに基づき、キャンプ火災・ウールジー火災の保険損害額の合計が90億ドルから130億ドルに上ると予測しており、米国の森林火災による保険損害額は、2年連続で100億ドルを超えることが見込まれている。一方、大手格付機関フィッチ・レーティングスは、カリフォルニア州の森林火災リスクは、概して資本が潤沢で高格付を有する大手保険会社によって引き受けられていることなどから、保険会社の経営に重大な影響を及ぼすことはないとの見解を示している。

（Business Insurance 2018.11.28 ほか）

## 【米国・市場動向】

### ○レモネードが欧州進出を表明

米国でP2P保険を展開しているスタートアップのレモネードは、2018年11月、欧州進出に向けた準備を進めていることを明らかにした。時期や進出する国等の詳細は示されていない。

同社CEOは、欧州進出の理由として、欧州は世界の主要保険市場の1つであり、革新的技術のエコシステムの中核であるとともに、多くの人々がレモネードの進出を望んでいることを挙げた。同氏は、レモネードの出資者であるアクサとアリアンツは欧州を本拠地としているが、同社の欧州進出を競合ではなく、連携強化につながるものと見てくれることを期待するとコメントしている。また、イギリス出身の同氏は、自らのルーツは欧州にあるため、個人的に欧州進出は一種の帰郷のようなものだとしている。

これに先立ち、レモネードは 2018 年 8 月に、同年末までに海外展開を開始すると表明していた。その際、同社は主に個人向けの住宅保険を販売しているが、あらゆる種類の損害保険を販売できる認可保険会社であるとして、販売種目とともに販売拠点を拡大する方針を示していた。

(レモネードウェブサイト、Insurance Times 2018.11.30 ほか)

## 【シンガポール・規制動向】

### ○サンドボックス・エクスプレスの新設

シンガポール金融管理局 (MAS) は 2018 年 11 月、特定業種の申請・承認を迅速化すべく、2016 年に開始した既存のフィンテック規制サンドボックスを補完する、「サンドボックス・エクスプレス」と呼ばれる事前定義型サンドボックスの設置に関する市中協議文書を公表した。

サンドボックス・エクスプレスは、特定業種における実験の範囲、条件等をあらかじめ定めたものであり、MAS はこの設置目的として、従来のサンドボックスの申請・承認プロセスを経ることなく、フィンテック企業が革新的金融サービスや商品をより早く市場で実験できるようにするとともに、申請にかかる時間と資源の節約を図ることを掲げている。

市中協議文書によると、サンドボックス・エクスプレスの対象として設定されたのは、保険法の規制を受ける保険ブローカー、証券先物法の規制を受ける認定市場運営者、および両替・送金業法の規制を受ける送金業者の 3 業種である。

サンドボックス・エクスプレスへの申請に当たっては、実験を行おうとする金融サービスや商品に関して、主として次のような事項を申告する必要がある。

- 対応すべき課題の説明、取組の解決策がもたらす新しい利点
- ビジネスモデルの概要と活用事例
- 技術的構造と解決策
- 試作品の準備と開発計画の工程

上記申請内容に対して、MAS は次の 2 つの基準に基づいて評価を行い、申請から 21 日以内に承認するかどうかを決定する。

- 申請者の主要な利害関係者 (株主、役員等) が適格性基準を満たすかどうか
- 提案された金融サービスまたは商品の技術的革新性

保険ブローカー向けの事前定義型サンドボックスの主な条件等は、顧客利益保護の観点から、次のとおりとされている。

- サンドボックス・エクスプレスを活用した実験期間は最大 6 カ月までとする。
- 保険会社が顧客である被保険者に対して発行する保険証券の件数を基準として、取引総数の上限は 1,000 とする。
- 申請企業は、すべての取引記録を保持しなければならない。

- 申請企業は、役員等の適格性基準を確保したうえ、これらの者による適切な宣言書を MAS に提出するものとする。
- 申請企業は、顧客に対して明確で適切な開示を行わなければならない。
- 申請企業は、内部統制システムを確立しなければならない。

これらの条件等を満たし、MAS からサンドボックス・エクスプレスの承認を得ることができれば、申請企業は保険ブローカーとしての登録を実験期間中は免除される。

(MAS プレスリリース 2018.11.14 ほか)

## 【香港・規制動向】

### ○香港、中国、マカオを結ぶ海上橋を通行するための自動車保険

2018 年 10 月、香港と中国・広東省、マカオを結ぶ 55km の世界最長の海上橋「港珠澳大橋 (HZMB)」が完成した。これにより 3 地域が 1 時間以内で結ばれることになり、地域内連携の深まりとともにその経済効果が大いに期待されている。

一方、香港とマカオにはその自治を保障する一国二制度が適用されているため、地域内連携には課題もある。その 1 つが自動車保険であり、HZMB を通行するドライバーは、3 地域の異なる法体系に対応して自動車保険に加入する必要がある。HZMB の開通にあわせて、香港保険業監管局は、当該ドライバー向けの自動車保険の要件として、以下を周知している。

- 香港から中国本土まで運転する場合は、双方で有効な自動車保険に加入する。
- 香港からマカオまで運転する場合は、途中で中国本土の海域を通過するため、3 つの管轄区域で有効な自動車保険に加入する。

香港保険業監管局によると、現時点で 3 地域の法的要件を同時に満たす自動車保険はないため、香港からマカオまで運転する場合は複数の保険契約が必要となる。なお、香港、中国本土、マカオの監督者は、香港の車両所有者・ドライバーが、香港の保険会社が提供するワンストップ・サービスを通じて中国本土・マカオの自動車保険に加入することを可能にする取決めに合意している。

(香港保険業監管局ウェブサイトほか)

## 【香港・市場動向】

### ○AI を用いた保険金詐欺データベースの始動

香港保険会社連盟 (HKFI) は 2018 年 12 月 1 日に、最先端の AI 技術を用いた保険金不正請求防止データベース (IFPCD) を始動させた。

用いられる AI 技術は、フランス・パリに本社を置くシフトテクノロジー (Shift Technology) から提供されるもので、詐欺の検出を含む保険金請求処理のプロセス全体をスピードアップすることに役立てられる。

IFPCD は、詐欺シナリオに基づくアルゴリズムを適用し、保険金請求データを分析

することで、請求の異常性・変則性を検出し、参加保険会社に対して警告する。当該保険会社は、さらに調査を行い、請求の有効性を判断し、適切な措置を取る。

HKFI は、「損害保険に関する海外市場での経験によれば、保険金支払 100ドルのうち約 10ドルから 15ドルは詐欺行為によるものとされており、IFPCD は正当な保険契約者の利益の保護に資する」と、IFPCD の意義を強調している。

IFPCD は段階的に開発されており、開始時点では、自動車保険、医療保険、傷害保険を対象としている。2018年12月1日以降、保険会社は随時 IFPCD に該当契約の保険金請求データをアップロードすることができる。今後、IFPCD の対象に生命保険と旅行保険を含めることが予定されている。

(HKFI プレスリリース 2018.11.30 ほか)